

第7回日本在宅看護学会学術集会の開催地が山梨に決まってから、約1年半、企画委員会を中心に準備を重ねて参りました。

今回のテーマを「在宅看護の原点、そしてさらなる挑戦」としたのは、全国に先駆けて訪問看護の制度化に取り組んできた山梨だからこそ、「在宅看護の原点」を大切にしつつ、「在宅へ」という時代のニーズに応える看護職の「さらなる挑戦」を語り合い、参加者がさらに元気になる学会にしたいと考えてからです。

さまざまな「在宅看護」が集まった

発表演題は全国の仲間から92題集まりました。訪問看護ステーション、病院や教育・研究機関など、さまざまな立場の皆さまから取り組みの報告があります。

1日目のシンポジウムは「多様化するニーズに応える訪問看護師の人材育成」をテーマに、訪問看護師のクリニカルリーダーへの取り組みや新卒訪問看護師の育成等の話題提供をしていただき、意見交換をしたいと思います。

2日目のシンポジウムは、テーマを「これからの在宅ケアは地域づくりから」とし、地域包括ケア時代の在宅看護は地域づくりを視野に入れた取り組みが重要という観点から、大いに語り合いたいと考えます。

さらに基調講演・教育講演と3つの教育セミナー、交流集会は日本救急看護学会とのコラボ企画等々、「看護のこれからの在り方」を語り合える、たいへん興味深い企画となっております。

味深い企画となっております。

1日目の16時40分からは上映会も企画しました。鹿児島県の訪問看護ステーションが取り組んだ「小児訪問看護への取り組み」を記録したものです。私たちはこの映像に出会い、たいへん大きな感動をもらいました。1人でも多くの人に観てもらいたいという思いからお願いし、実現した上映会です。関わった訪問看護ステーションの所長さんも、鹿児島県からお

在宅の時代に これからの看護 を語り合おう

第7回日本在宅看護学会 学術集会開催

第7回日本在宅看護学会学術集会長
山梨県立大学看護学部教授
佐藤悦子

越しただけの予定です。

11月の下旬は、会場となる山梨県立大学からも山頂が雪で白くなった富士山を見ることが出来ます。新酒のワインができあがるころでもあります。温泉につかりながら、心のエネルギーも充電していただけたらと思います。皆様のお越しを、心よりお待ち申し上げます。学会でお会いしましょう。

第7回日本在宅看護学会学術集会 在宅看護の原点、そしてさらなる挑戦——実践・研究・教育の場からの発信

日時 11月25日(土)・26日(日)
会場 山梨県立大学看護学部池田キャンパス(山梨県甲府市)
プログラム
学術集会長講演「地域包括ケアのなかで在宅看護を担う看護職の強みを活かす」佐藤悦子(山梨県立大学看護学部教授)
基調講演「山梨の訪問看護制度は35年前から始まった」川村佐和子(聖隷クリストファー大学大学院教授)
シンポジウム1「多様化するニーズに応える訪問看護師の人材育成」柴田三奈子(ラビオン代表取締役、山の上ナースステーション統括所長)・齋藤訓子(日本看護協会副会長)・小瀬文彰(全国新卒訪問看護師の会代表)・並木奈緒美(山梨県看護協会ゆき訪問看護ステーション所長)
シンポジウム2「これからの在宅ケアは地域づくりから」新田國夫(全国在宅療養支援診療所連絡会会長、日本在宅ケアアライアンス議長)・秋山正子(ケアーズ白十字訪問看護ステーション・白十字ヘルパーステーション統括所長、マガーズ東京センター長)・力石泉(豊郷病院総看護部長)・矢崎貴恵(山梨市役所保健師)・西向子(療育・介護経験者)
教育講演1「時代を見据えたこれからの在宅看護」佐藤美穂子(日本訪問看護財団常務理事)
教育講演2「社会学の視点から地域包括ケアのこれからをみる」猪飼周平(一橋大学大学院教授)
教育セミナー1「在宅における看取りのパス」茅根義和(東芝病院緩和ケア科部長)
教育セミナー2「看護学分野における質的統合法」山浦晴男(情報工房代表、千葉大学大学院看護学研究科特命教授)
教育セミナー3「看護研究における倫理」西田幸典(昭和大学保健医療学部講師)
市民・多職種公開講座「母に先立って認知症になった父を世話した10年に及ぶ男の介護」盛田隆二(作家、元情報誌「ぴあ」編集長)

上映会「愛しき命——訪問看護の現場から」渡邊理恵(鹿児島県こども訪問看護ステーション所長)/他
参加費 会員9000円、非会員1万円、大学院生3000円、学部学生1000円
公開講座のみ参加:看護職以外の専門職1000円、一般無料
※学部学生、大学院生は学生証のコピーが必要
学術集会事務局
〒400-0062山梨県甲府市池田1-6-1
山梨県立大学看護学部(佐藤研究室内)
✉ zaitaku7@yamanashi-ken.ac.jp
http://www.zaitakukango.com/shukai_7th/top.html

同時開催

2017年度日本在宅看護学会主催研修セミナー
多死時代を支える看護師の役割
——ICTを活用した死亡診断の理解・普及に向けて

日時 11月26日(日)13:15~14:45
会場 山梨県立大学看護学部池田キャンパス3号館3階301(山梨県甲府市)
講師 浅田祥乃(厚生労働省医政局看護課看護サービス推進室係長)
定員 150名 ※定員になり次第締切
参加費 日本在宅看護学会会員・学生3000円、非会員5000円
※学術集会参加者は参加証の提示で無料。